

雨池（名古屋市守山区）で採集されたアノマロクロミス・トーマシー *Anomalochromis thomasi* (Boulenger, 1915)

寺本 匡寛⁽¹⁾ 鵜飼 普⁽²⁾ 浅香 智也⁽²⁾

⁽¹⁾ なごや生物多様性センター 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

⁽²⁾ 三河淡水生物ネットワーク

Records of *Anomalochromis thomasi* in the Ama Pond, Moriyama-ku Nagoya City, Aichi Prefecture, Japan

Tadahiro TERAMOTO⁽¹⁾ Futoshi UKAI⁽²⁾ Tomonari ASAKA⁽²⁾

⁽¹⁾ Nagoya Biodiversity Center, 5-230 Motoyagoto, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi, 468-0066, Japan

⁽²⁾ Mikawa Freshwater Life Network

Correspondence:

Tadahiro TERAMOTO E-mail: teramoto39@jupiter.ocn.ne.jp

はじめに

外来種の放逐はその地域の在来生態系に対する潜在的な脅威であり、野外での新たな外来種の侵入に対するモニタリングや、これまでの侵入状況を知るための記録の蓄積が必要である (Miyazaki et al, 2015). 名古屋市内では、北アメリカ原産のアリゲーターガー *Atractosteus spatula* が名古屋城水堀 (野呂ほか, 2018) で採集され、鏡ヶ池 (なごや生物多様性保全活動協議会, 2014) で確認されている。他には香流川でアフリカ原産のポリプテルス・セネガルス *Polypterus senegalus* が (名古屋市環境局: 2017), 植田川でアフリカ原産のポリプテルス・オルナティピニス *Polypterus ornatipinnis* とした観賞魚が野外で採集されている (愛知県, 2017). また、荒子川で食用として1962年に移入されたアフリカ原産のナイルティラピア *Oreochromis niloticus* が野外で採集されている (名古屋市環境局: 2017).

今回、雨池においてアフリカ原産の観賞魚、アノマロクロミス・トーマシー *Anomalochromis thomasi* (Boulenger, 1915) を採集したので報告する。

採集の経緯

2017年9月2日に、名古屋市守山区御膳洞に位置する雨池において南東側の自然護岸の水中にリターが堆積し

た場所 (35°12'37.6"N, 137°00'05.0"E) において「なごや生きもの一斉調査・2017 淡水貝編」の調査中に著者の一人である寺本がアノマロクロミス・トーマシーを1個体採集した (図1, 図2).

アノマロクロミス・トーマシーは、西アフリカのシエラレオネとリベリア、ギニア南東部の河川に生息する性質は比較的温和小型シクリッドで、小さな巻貝を好んで食べてくれることで有名である (桜井, 1996; 小林, 2009). 実際に、採集した場所にはハブタエモノアラガ



図1. 2017年9月2日に採集されたアノマロクロミス・トーマシー
(2017年10月28日寺本匡寛撮影)

寺本ほか (2018) 雨池 (名古屋市守山区) で採集されたアノマロクロミス・トーマシー *Anomalochromis thomasi* (Boulenger, 1915)



図2. アノマロクロミス・トーマシーを採集した環境
(2017年9月13日寺本匡寛撮影)



図3. アノマロクロミス・トーマシーの確認地点
(国土数値情報を編集して作成 編集者：寺本匡寛)

イ *Pseudosuccinea columella*, サカマキガイ *Physa acuta*, ヒロマキミズマイマイ *Menetus dilatatus*, カワコザラガイ *Laevapex nipponica* といった小型の淡水貝が生息していた。

雨池は守山区御膳洞に位置する雨池公園内にある池面積約7,900 m²の洪水調節池である (図3)。1983~85年度に洪水調節池として大規模改修され、流入口、洪水吐や北側を除いた護岸等が整備され西側は石張り護岸、南側は階段状の親水護岸となり、釣り人の多い池となった (名古屋市環境局地域環境対策部地域環境対策課・名古屋市環境局地域環境対策部環境科学調査センター・名古屋市緑政土木局河川部河川計画課, 2016)。2010年に外来種除去を目的に池干しが行われ、ゲンゴロウブナ *Carassius cuvieri* 以外の外来種 (コイ *Cyprinus carpio*, ソウギョ *Ctenopharyngodon idellus*, カダヤシ *Gambusia affinis*, カムルチー *Channa argus*, オオクチバス *Micropterus salmoides*, ブルーギル *Lepomis macrochirus macrochirus*, ウシガエル *Lithobates catesbeianus*) が取り除かれた (名古屋ため池生物多様性保全協議会, 2011)。しかし, 2013年の調査の際には, カダヤシ, ブルーギル, ウシガエルが再確認された他, ハブタエモノアラガイ, サカマキガイ, ゲンゴロウブナ, アメリカザリガニ *Procambarus clarkii* といった外来種が確認されている (なごや生物多様性保全活動協議会, 2014)。

繁殖の可能性について

1個体のみの確認であれば, 単に放流された可能性が高い。しかし, 複数個体確認できれば繁殖の可能性があると考え, 9月13日にもんどりとタモ網で再度採集を試みた。その結果, 著者の一人である鵜飼がさらに1個体採集した。9月2日に採集した個体の全長は, 40 mm, 9月13日に採集した個体の全長は53 mmであった。いずれの個体もペットショップやホームセンター等で観賞魚として販売されている体サイズであり, 本種は成長速度が速いことを考慮すると誰かが購入後すぐに放流したとは考え難く, 親魚が放流された後に繁殖した個体が採集された可能性が示唆された。シクリッドの仲間は子育てすることが知られており, 本種の産卵は石や流木などの上に卵を産み付ける基質産卵魚で, 両親で卵から稚魚の世話をする特徴を持つ (桜井, 1996; 小林, 2009)。特定外来生物に指定されているブルーギルはオスが卵から仔魚を守り, オオクチバスはオスが卵から稚魚を守る特徴がある (松沢・瀬能 (監修), 2008)。これらの種に共通するのは, 親魚が卵や稚魚の世話をする点である。この特性が捕食者となる外来種が多く確認されている雨池において繁殖個体の生存を可能にしているかもしれない。

雨池は, 放流禁止の看板がつけられているのに関わらず (図4), 本種が放流されたことを考えると観賞魚の放流に対する普及啓発が十分なされているとは言えず, より一層の注意喚起が必要である。

また, 冬期の低温によって本種が定着する可能性は低

寺本ほか (2018) 雨池 (名古屋市守山区) で採集されたアノマロクロミス・トーマシー *Anomalochromis thomasi* (Boulenger, 1915)



図4. 雨池において放流禁止を呼びかける看板
(2017年9月13日寺本匡寛撮影)

い。しかし、冷水性の河川や湖沼に生息するウチダザリガニ *Pacifastacus leniusculus trowbridgii* が比較的水温の高い関東平野で繁殖し (田中, 2012), 環境の変化に耐性を付けてしまう場合がある。また、水温が比較的温暖な場所があれば国内にいるティラピアのように定着 (谷口, 2012) してしまう可能性もある。このため、今後継続してモニタリングする必要がある。

試料

スズキ目 Order Perciformes

シクリッド科 Family Cichlidae

アノマロクロミス属 Genus *Anomalochromis*

アノマロクロミス・トーマシー *Anomalochromis thomasi* (Boulenger, 1915) (図1)

標本：

豊橋市自然史博物館所蔵 (70%エタノール液浸標本), 1個体, 全長40 mm, 標準体長32 mm, 体高14 mm, 雨池, 2017年9月2日採集。(登録番号: TMNH-F-2375); 豊橋市自然史博物館 (70%エタノール液浸標本), 1個体, 全長53 mm, 標準体長42 mm, 体高15 mm, 雨池, 2017年9月13日採集。(登録番号: TMNH-F-2376)

同定：

同定は、株式会社名東水園の渡辺友治氏が写真により行った。さらに、計数形質を測定し、TMNH-F-2375が、背鰭条数XIV, 9; 臀鰭条数Ⅲ, 8; 胸鰭条数10; 腹鰭

条数, I, 5, で、TMNH-F-2376が、背鰭条数XIV, 10; 臀鰭条数Ⅲ, 8; 胸鰭条数10; 腹鰭条数I, 5であった。これらをFishBase (Froese,R. and D.Pauly,Editors.2017. FishBase.FishBase, www.fishbase.org, (06/2017), Confirmation November 12, 2017) の情報と比較したところ、背鰭条数がXIV-XV, 8-10, 臀鰭条数がⅢ, 7-9と記載されており、2標本ともこの範囲であった。このため、本報告では、これらを名古屋市で初記録のアノマロクロミス・トーマシーと同定した。

謝辞

この報告をまとめるにあたり株式会社名東水園の渡辺友治氏には写真により同定していただいた。また、株式会社名東水園の小菅崇之氏には渡辺友治氏をご紹介していただいた。名古屋市環境局地域環境対策部環境科学調査センターの岡村祐里子氏と愛知県環境調査センターの清水美登里氏には有益な文献をご紹介いただいた。豊橋市自然史博物館の坂本博一氏には有益なご助言をいただくとともに標本の計測にご協力いただいた。名城大学の林和志氏、久保貴寛氏、長野宏佑氏には調査にご協力いただいた。以上の方々にこの場を借りてお礼申し上げる。

引用文献

- 愛知県. 2017. 平成28年度愛知県外来種調査業務報告書. 愛知県, 愛知県. 40pp.
- 小林道信. 2009. アクアリウム・シリーズ ザ・シクリッド 子育てする魚の飼育と楽しみ方. 誠分堂新光社, 東京. 223pp.
- 松沢陽士・瀬能 宏 (監修). 2008. 日本の外来魚ガイド. 文一総合出版, 東京. 157pp.
- 名古屋市環境局. 2017. 平成27年度版 名古屋市環境白書 資料編. 名古屋市環境局, 名古屋. pp135.
- 名古屋市環境局地域環境対策部地域環境対策課・名古屋市環境局地域環境対策部環境科学調査センター・名古屋市緑政土木局河川部河川計画課. 2016. 市内河川・ため池・名古屋港の水質の変遷. 名古屋市環境局地域環境対策部地域環境対策課・名古屋市環境局地域環境対策部環境科学調査センター・名古屋市緑政土木局河川部河川計画課, 名古屋. 524pp.
- 名古屋ため池生物多様性保全協議会. 2011. 平成22年度

寺本ほか (2018) 雨池 (名古屋市守山区) で採集されたアノマロクロミス・トーマシー *Anomalochromis thomasi* (Boulenger, 1915)

- 生物多様性保全推進支援事業 名古屋ため池生き物いきいき計画事業報告書. 名古屋ため池生物多様性保全協議会, 名古屋. 81pp.
- なごや生物多様性保全活動協議会. 2014. 平成25年度 環境省生物多様性保全推進支援事業 都市部における生物多様性の保全と外来生物対策事業報告書. なごや生物多様性保全活動協議会, 名古屋. 232pp.
- なごや生物多様性保全活動協議会. 2017. 平成28年度 なごや生物多様性保全活動協議会活動報告書 資料編 水辺の生きもの部会. なごや生物多様性保全活動協議会, 名古屋. 60pp.
- 野呂達哉・鶴飼普・宇地原永吉・岡田健士朗・酒井正二郎. 2018. 名古屋城外堀におけるアリゲーターガー *Atractosteus spatula* (Lacepède, 1803) の捕獲. なごやの生物多様性, 5: 65-73.
- 桜井淳史. 1996. シクリッドの世界. 緑書房, 東京. 143pp.
- Miyazaki, Y., Murase, A. and Senou, H., 2015, A natural history museum as a platform for accumulating verifiable information on non-native fishes: a Japanese example. *Manag. Biol. Invasion* 6:105-115.
- 谷口義則. 2012. ナイルティラピア. 愛知県の移入動植物ブルーデータあいち2012. p.84. 愛知県環境部自然環境課.
- 田中和義. 2012. 千葉県の現状ー関東地方における特定外来生物ウチダザリガニの初記録. *Cancer* 21: 89-91.